

地域資源を活かした 地場産業の育成を

内田 勇 議員

町長 後継者の確保策を検討する



問 ふるくから奥出雲の地場産業として雲州そばは繁栄をし、多くの人々の生活を支えていました。また、家具などの工芸品も重要な産業として奥出雲の物づくりを有名にしていきました。物づくり文化という地域資源、財産を育成し、後世に伝える取組みは、

答 地場産業の育成強化ですが、奥出雲のそばはもともと製鉄でできた優れた鋼があって、日本刀の原料にもなり、そばの原料にもなり、そばばんや加工する工芸も盛んになっております。最近ではそばばんの見

直しが進んでおり、町内で毎年開催されている珠算競技大会も45回を数え、町内外より200名を超える子供たちが集う大会となっております。伝統工芸品である刃物等も幅広い世代から高い評価を得ており、技術を継承する後継者の確保が一番の課題であり強化策を検討する。

問 奥出雲の四季を生かした新鮮で多様な食材や美しい盛りつけなど人々の心をとらえることができると考えます。

秋には、米ーイグランプリが盛大に開催されます。「おいしいものを食べに奥出雲へ行こう」とのイベントの取組みを、

答 食をテーマに、四季を通じてのイベント開催という提案ですが、米ーイグランプリも3回目でしたが盛会に開催されています。10月には観光協会が中心となり「たたら製鉄師おもてなし料理」を練原家に伝わる料理イベントも開催されました。

特に冬場にイノシシのポタン鍋をテーマにとか、大根料理であるとか

奥出雲の食のイベントが充実するよう検討したい。

問 第10回全国和牛能力共進会が10月佐世保市で開催され、島根県代表に選ばれた阿井地区の4頭が出品されました。

5年後の全共に向けての対策と感想は、

答 九州勢が圧倒的に強く、全国の和牛改良とが飼養技術が大変レベルアップしている。

奥出雲和牛、仁多牛の改良あるいは飼養技術の向上については、和牛改良組合、JA雲南などの関係機関と連携を図りながら積極的に支援したり取り組みを強化したい。

問 和牛飼養農家の皆さんの大変な思いを細かく聞いて、どのような支援が必要か検討し、後継者育成のため奨学金の支給も考えてはどうか。

答 奥出雲ブランドの仁多米とともに地域産業を、堆肥施用による循環型農業を目指す本町にとり重要不可欠であり、農畜産振興を一体として考え、各グループに対する支援策、あるいは集落営農、

集落畜産の取組みも検討したい。

問 少子化対策は、安心して子どもを生み育てられる環境や、出産、子育てしやすい仕組みや職場復帰できる環境整備など子育てサポート体制の充実が重要と考えるが、

答 若日子育て支援室長町ぐるみで一体となった支援、子どもを生み育てる環境を整備していくことで安心して出産、子育てができる重要なことであり、幼児園化を積極的に進めると共に、子育て支援として平成23年6月にしまね子育て応援パスポート事業のこころ協賛店が11店舗と増加しています。

問 介護予防対策としての介護支援ボランティア制度の導入と、特定健診の無料化実施を、

答 野原健康福祉課長 本町には2団体が活動されポイント制度について検討してまいりたい。特定健診の受診率は36%であり60%の目標めざし無料化を検討したい。